

難聴のある人と話してみる

2020年度版

これは難聴のある学生や社会人の方が、周りの人へ難聴について説明するための資料です。
「資料1」は、難聴についての「一般的な情報をまとめた説明資料」です。
そのままコピーして、周りの人に読んでいただくなどの方法で活用してください。
でも実際には難聴の状態は一人一人違います。周りの人に協力してほしいことも違います。
自分の難聴についてより正確に説明するために「自分専用の説明資料」があるとよいです。
「資料2」には、難聴のあるご本人やご家族が、「自分専用の説明資料」を作るのを助ける情報が書かれています。これを参考に「自分専用の説明資料」を作ってみませんか。

さっぽろ子どもの聞こえ相談ネットワークを作る会

難聴のある人とあまり困らずに会話するためにできること。

会話する環境や位置、準備

例えば

- できるだけ静かな環境を選びましょう。
- 相手から口の動きが見やすいよう、自分の顔が明るく見える位置を選びます。
- 相手の正面の近く、又は聞こえやすい耳の近くの位置を選びましょう。
- マスクをしていたら、話し掛けるとき、又は話し掛けられたときは外します。
- 紙やホワイトボードなど書く道具を用意しておきましょう。

会話の始め方

例えば

- いきなり話し掛けないで、「話し始めるよ」という合図をしてから話し始めます。
- 目と目が合ったタイミングで話し始めましょう。
- はじめに、何について話をするかを伝えてから話し始めます。(話す又は書く)

会話の進め方

例えば

- 相手に顔を向けて、目と目が合っている時に話すことが基本です。
- 「今の話は伝わったかな？」と常に相手を見ながら話し方を工夫しましょう。
- ことばを丁寧に語尾までハッキリ話してみます。
- 声の大きさや距離を、相手が聞き取りやすいように加減しながら話してみます。
- 話す速さを、相手が分かりやすいように加減しながら話してみます。
- 同じことばを繰り返して、又はことばを換えて話してみます。
- 固有名詞やキーワード、話の要点、図などを書きながら話してみます。
- 身振りや手話、指文字などを加えながら話してみます。
- 復唱するなどして、理解し合えたかを確認しながら話してみましょう。

相互理解が大切

例えば

- 予備知識として、難聴について勉強しておきましょう。(次のページも参考に)
- その人との会話を通して、その人の聞こえにくさを理解していきましょう。
- 例えば、聞こえやすい耳は右耳だとか、できれば筆談を希望している、など。
- 「何とか分かり合いたい」と思っていることを表現していきましょう。

最も大切なことは、相手が分からないでいる様子に気付いて伝える工夫をしてみることです。

もし、その時にできる工夫が十分でなくても構いません。

聞こえにくさに気付いて、何とか伝えようとするあなたの気持ちが相手に伝わります。

それによって少し安心し、お互いにあまり困らずに会話を続けられる雰囲気になるでしょう。

難聴のある人が、人との会話を理解するためにしていること。

難聴のある人の聞こえにくさは、一人一人違います。そのため、聞こえにくさに合わせて

● 補聴器や人工内耳を使い、音声を聞き取ろうとする人がいます。

聞こえにくさがかなり改善されますが、状況によっては聞こえないことがあります。

例えば、声の大きさや距離によっては、聞こえないことがあります。

周りの騒音や反響音の大きさによっては、聞こえないことがあります。

後ろから声を掛けられても分からないことがあります。

左耳か右耳か、聞こえにくい耳の方から話されると分からないことがあります。

音声が聞こえても、ことばの一音一音を正確に聞き取るることができないことがあります。

音声が聞こえても、話の内容が理解できないことがあります。

● 話す人の口の動きを見て話を理解しよう(読話)とする人がいます。

もし顔が見えにくい場合や、マスクをしている場合は読話しにくくなります。

うまく顔が見えても、読話だけで内容の全てを理解するのは難しいです。

● 文字に書いて話し合い(筆談)、理解し合おうとする人がいます。

文字は確実に分かる手段ですが、会話の内容を全て書くのは難しく、時間もかかります。

● 手話ができる人の場合、手話で話し合い、理解し合おうとする人がいます。

手話は大変有効な手段ですが、手話で話せる人が周りに少ないのが難点です。

補聴器や人工内耳をしている人の中に、まるで聞こえて会話をしているように見える人がいます。

しかし多くの場合、耳で音声を聞くだけで会話を理解することは難しいのです。実際には、

● 耳で聞き取ったわずかな情報と、目で見た情報とを総合して理解している場合が多いのです。

以下のような事情から、総合して理解するには周りの人々の理解と協力が大切になります。

- ・ 口の動きが見えることがとても重要。 → 相手に顔を向けて目が合っている時に話す。
- ・ 何についての話かが分かることが重要。 → キーワードや話の要点を書く。
- ・ 補聴器や人工内耳は万能ではない。 → 丁度よい声の大きさや距離で話す。
- ・ 補聴器や人工内耳は騒音に弱い。 → できるだけ静かな場所や時間を選ぶ。
- ・ 音声と口の動きだけでは理解できない。 → 文字や図などの視覚情報を加える。
→ 身振り、手話などの視覚情報を加える。
- ・ 突然話し掛けられても理解しにくい。 → 「話し始めるよ」と合図する。
- ・ 早口で話されると理解しにくい。 → 丁度よい速さで話す。繰り返し話す。
- ・ 初めて聞くことばは理解しにくい。 → 固有名詞などは文字に書く。

難聴のある人の中には、人と会話することを不安に感じたり、会話することをためらってしまう人もいます。こちらが「難聴のある人のことを理解したい、分かり合いたい」と思っていることを表現していくことも大切で、それによって少し安心して会話もしやすくなります。

集団場面やスピーカーからの音は聞き取りにくい

難聴のある人にとって、以下のような場面で人の話を聞くことは、一対一の会話場面よりさらに理解しにくく、困り感が強くなります。

- ・複数の人で話し合う場面や、誰かが複数の人に向けて話している場面。
- ・例えば、会議、ミーティング、打合せ。学校なら、グループ学習、委員会など。
- ・館内放送や講演会など、スピーカーから聞こえる人の話を聞く場面。
- ・テレビやラジオ、電話から聞こえる人の話を聞く場合。 などなど・・・

状況に応じて、本人と相談しながら、できる協力方法を考えてみましょう。

例えば

- ・話し合いの場面などでは、内容の要点を本人に伝えましょう。(話す又は書く)
- ・放送が聞こえたら、内容の要点を本人に伝えましょう。
- ・テレビ視聴の場合は、字幕表示にします。
- ・本人へ電話が掛かってきたら、替わりに出て内容を本人に伝えましょう。
- ・本人へ電話を掛ける用事がある場合は、電話の替わりにメールなどがよいです。
- ・災害時などには、ラジオ等の情報を本人に伝えましょう。 ・・・など。

大きな部屋や屋外は聞き取りにくい

小さな部屋では、会話音に壁や天井で反響した会話音がプラスされるので、聞き取りやすくなります。それに対して、大きな部屋や体育館、屋外では、会話音が拡散してしまうので、1対1の会話でも聞き取りにくくなります。体育館や屋外では、ワイヤレスマイクの使用や視覚的な情報保障が必要となります。

ただし、全面コンクリート壁のような部屋の場合、反響音が多過ぎて聞き取りにくくなることもあります。